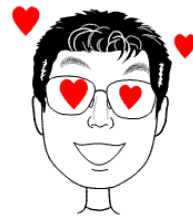


豊庄だより



第 534 号 2018 年 9 月 25 日

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

「先生！今、西新で同窓会しているんですけど、来ませんか？」という電話が入りました。休日の夜、20 時頃のことでした。この日は昼間とても暑く、夕食にエビスビールを一缶飲んで、ちょっと疲れていたし、早めに寝ようかなと思っていた時の電話でした。電話の相手は名前を登録していた K a 君でした。K a 君は高取中の卒業生。私が中学校の教師として採用され、1 年生の担任をしていた時の 2 年生です。「K a 君かあ～久しぶり。ところで、どこでしているの？」と聞くと、「祖原の J です。」という返事が返ってきました。J はたしか彼らと同級生が経営している店（じゃがいもがおいしい店と書けば、すぐにわかってしまいますが・・・）。「何人くらい集まっているの？」という問いに、「40 人くらいです。剣道部の F 君もいますよ～」と言われ、出かけることにしました。



J に到着。宴会はすでに盛り上がっていました。学年が違うので知っている子は、限られていました。数えてみると 7 人いました。そのうち 3 人が（もう卒園していますが）豊庄保育園に保護者として来ていました。K a 君も保護者の一人です。奥さんも同じ卒園児の保護者。つまり二人は中学校時代の同級生です。もう一人の K o さんも、「子どもは中学 3 年生になりました。進路で迷っています。」と話してくれました。卒園して 8

年、スマホの写真にピッチャーとして活躍している凛々しい M 君の姿が写っていました。

たくさん集まったなあと会場を見渡しました。宴会場の奥の方に K o 君がいるのを見つけました。「やあ～」と言って近づき話しました。在学中のきつい目つきは消え、穏やかな優しいおじさんになっていました。今でも、中学時代の彼のやんちゃで、かなりきつい場面が頭に浮かんでできますが、あれから 35 年、変貌に驚きました。「教育は目先の結果だけにとらわれてはいけない」と改めて思いました。

剣道部だった F 君は気象庁に勤めていて、この同窓会のため仙台から来たということ。パソコン持参で、気象予報士としてテレビに出ていたものを見せてくれました。中学時代は痩せていて、剣道の練習ではいつもフラフラ状態になっていたのを思い出します。剣道部員がもう一人いました。女子部員 3 人のうちの一人で、厳しい練習の成果もあってか、この年は団体で県大会まで行きました。

卒業アルバムを持ってきている子がいて、ちょっと借りて眺めると、「先生、彼のこと知っています？」と、眼鏡をかけた少年を指さしました。「誰？」と聞くと、「東山彰良ですよ、直木賞を取った。僕、彼の作品、全部読みましたよ～」と話してくれました。直木賞を取り、マスコミのインタビューで、彼が少年時代のことを語っているのを見た時、ひよっとしたらと思っていたのですが、彼は高取中の出身だったのですね。

彼ら、彼女らは今年で 50 歳。5 年前に 1 回目の同窓会をして、今回が 2 回目。地元に残っている子が多いのもあるけど、40 人とはよく集まったものです。